

一天井のステンドグラスランプが揺れているー
僕の中にある最も古い記憶だ。おそらく生まれたばかりの頃のものの。
異なる色彩が組み合わさってひとつの模様になっている。
小さな家の中、その灯りの下で育った。

自分にとって最初で最小の所属単位として家族があった。
周りには似たような形の家が建っていて、はじめての友だちができた。
遊びの中で、共通点や違いを体感した。

年を重ねていくことで
新しい人や 新しい場所が目の前に現れ
未知の大陸のように世界地図は更新されていく。

時に隣人は異質な他者となり
あたりまえが あたりまえでなくなっていく。
関わることは境界線を生む。

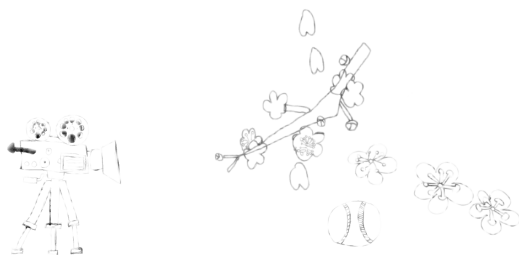
社会の基礎単位としての家族がいくつか集まり
異なる背景を持つ人々が生活する場所として、地域は構成されている。
「障害」とは何だろう。「地域の中で生きる」とは。
2つの映画を通して考えてみたい。
自閉症の妹を撮影した兄・赤崎正和監督が描く家族のドキュメンタリー『ちづる』
50歳を迎えた自閉症の息子とその将来を案ずる母親のこれからを描いた『梅切らぬバカ』

庭の梅の木は境界線を越えて隣家へと伸びていく…

1枚の絵を皆で描くために残された色やスペースがあること
互いを名前で呼び合うこと
共に生きるとは、そんな景色のことだと思う。

境界線に立って 少し先の未来を考えよう。
関わることで境界線は溶けていく。
そう信じている。

logue
井上真吾



●『梅切らぬバカ』和島香太郎監督作品



©2021「梅切らぬバカ」フィルムプロジェクト

●ローグ自主企画『bookmark』



●『ちづる』赤崎正和監督作品

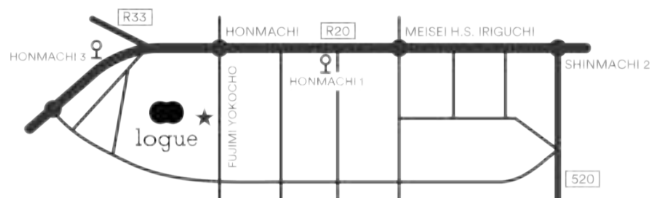


©「ちづる」上映委員会

●障害福祉サービス ローグ



駐車場の数が限られておりますので、なるべく公共交通機関でお越しください。駐車場ご利用の場合は、事前にご連絡をお願いします。



〒409-0112 山梨県上野原市上野原2075-1

Tel: 0554-67-8680 | Mail: info@logue00.com | Fax: 0554-67-8681 | HP: <https://logue00.com>

[アクセス]最寄り駅: JR中央線「上野原駅」富士急バス「本町一丁目」もしくは「本町三丁目」下車 徒歩4分 駐車場5台(無料)